

**飯山市基本構想審議会専門委員会及び飯山市地方創生総合戦略
会議専門部会 会議概要**

1	会議名	令和6年度 第1回 飯山市基本構想審議会専門委員会及び飯山市地方創生総合戦略会議専門部会
2	日時	令和6年11月1日（金）10時00分～11時40分
3	会場	飯山市役所 4階 第3委員会室・第4委員会室
4	委員出席者 (順不同)	本間部会長、小林副部会長、岡田委員、佐々木委員、小林（次）委員、片山委員、池田委員、前田委員 ※欠席：スタンキー委員、高野委員
5	報道関係者 (順不同)	北信ローカル、北信濃新聞、iネット飯山、事業戦略課
6	事務局出席者	全部長、企画財政課長、企画調整係長、企画調整係主査

会 議 事 項 等

1 開 会 (進行：企画財政課長)

本日は大変お忙しい中、飯山市基本構想審議会専門委員会および飯山市地方創成総合戦略会議の専門部会ということでご出席いただきまして大変ありがとうございます。会議の内容につきましては、飯山市ホームページに公開をさせていただきます。その際には委員の皆さんの個人のお名前は伏せさせていただきます。

2 あいさつ (市長)

昨年の3月に飯山市の最上位の計画でございます第6次総合計画を策定し10年後の将来のまちの姿を描き、その実現に向けた方向性目標を示したわけでございますが、現在様々な施策を実施し、事業を推進しているところでございます。今回計画初年度でございます令和5年度の1年間の施策の進捗状況を整理いたしました。当市を取り巻く課題が山積しておりますが、その進捗状況等についてご議論いただきたいと思っております。委員の皆様には、事業の検証を実施していただき意見交換の時間を重点的に設けさせていただきましたので、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 報告

資料1 「海外から移住された方との懇談会で出された意見の現状について」
(資料に基づき事務局で説明)
→質問・意見等なし

4 会議事項 (進行：本間専門部会長)

(1) 飯山市第6次総合計画前期基本計画及び飯山市総合戦略の進捗状況について

- ・資料2-1～2-5 「飯山市第6次総合計画・飯山市総合戦略について」
- ・資料3 「施策別達成状況集計表」
- ・資料4 「施策評価シート」
- ・資料5-1～5-3 「前期基本計画・総合戦略 令和5年度の進捗状況」
(資料に基づき事務局で説明)
→質問・意見等なし

(2) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の進捗状況について

- ・資料6 「デジタル田園都市国家構想交付金活用事業 (R4～R8) 【KPI】」
(資料に基づき事務局で説明)
→質問・意見等なし

(3) 意見交換 (専門部会長)

自由に意見交換を行っていただきたいと思います。委員の皆様にはどんなことでもいいですので忌憚のないご意見を出していただきたいと思います。

(委員)

今年初めて雪まつりに参加したら、皆さんが頑張った雪像は素敵だなと思いつつ、自分が東京にいたときに交通費をかけて見に行くかと言うと、そこまでではないかなというのが正直な意見としてありまして、せっかくなら芸術的な面をもう少し延ばしていくとパワーアップするのかなと。今やっていることを続けることはいいことだと思うのですが、一つ考えたのがアーティストの方にお金を出す。札幌までのことをやるというよりも、新しい価値を作った方がいいのでは。例えば芸大の学生さんに呼びかけて、宿泊費とか交通費を市で負担するという形でやってもらうこともできると思いますし、アートとして認められれば、関心ある人はお金を出してでも行きたいと思う行事になると思いますので、もちろん今の雪像を否定しているとかではなくて、様々な所との連携を検討してもらえると良いと思います。

(総務部長)

私も地元で雪像を10年以上作っているのですが、大型雪像の部については、各区が中心となって区の有志の方が集まって雪像を作っていて、地域おこしのため、みんな多くのお客様に来てもらいたいということでやっている。10年以上やってもスキルとすれば今年のような雪像が精いっぱいというところで、ご提案のあった専門性のある方に来ていただいて作っていただくというのは、見栄えの点でいうといい話かなと感じます。

(本間会長)

資料4のページ数が膨大ですので、どこか説明していただきたいページとかありますか。達成状況の中で聞きたいことなどありますか。また、最初に説明のありました報告事項の資料1の実施状況についても質問ありましたらお願いできればと思います。

(委員)

この資料3 施策別達成状況集計表ですが、この8割以上達成とか7割以上達成というのは何を基準にしてこの評価が出たのかを聞きたいです。

(事務局)

※資料の見方について説明

(委員)

この効果について、例えば目標が5だったときに、5やりました。というのは良いですが、この効果がどういうふうに出たというのは、どこにうたわれているんですか。

(事務局)

※達成状況と課題について説明

(本間部会長)

1年度の成果のみで8.8割以上というのはこの資料も良いですが、5ヶ年計画の中で、最終的な目標値に対して今年度は何%の達成みたいなのもあると、5年の中で今どこまで進んでいるというのがわかりやすくなると思いますので、ご検討いただければと思います。

(事務局)

はい、また検討させていただきます。

(委員)

資料5の年代別男女別社会動態の中で20代の男女が大変減になっているのですが、その

原因・理由など把握しているのでしょうか。

(事務局)

市民環境課の転出転入を受付ける窓口においてご協力いただいた方のアンケート結果によると、20代の方の転出の主な理由としてはやはり就職とか、転職、そういう理由によって転出される方が多い状況となっております。

(委員)

それを少しでも防ぐ方策はないのでしょうか。これは市全体のこと、あるいは景況とかそういった問題もあると思いますが、20代の男女がいなくなるということは本当に老人市、私も老人ですが、将来が寂しくなる気がしています。何か手だてはないのでしょうか。

(事務局)

今一番そこが課題というふうに考えております。アンケート結果で就職転職で転出される方の理由として、働きたい会社がこの地域にないとか、働きたい会社はあるがその会社の求人がないとか、勤務条件の合う会社に行きたいとか、そういうことも含めまして、飯山市としてもこれまでいろいろな対策は行ってきているのですが、人口減少について歯止めがかかっていない状況です。国も施策を講じる、県でもそれに対する計画、プランをまとめようとしておりますので、そういう部分をしっかり把握しながら、市としても、より効果的な対策を今後もしっかりやっていきたいと考えているところです。

(委員)

転出先の市町村ってどういったところが多いのですか。例えば中野市とか長野市とかあるいは東京都内とか、大雑把でいいんですが、どういうところに皆流れていってしまうのかなど。こんな素敵な飯山市なのにどうしてだろうって。

(事務局)

すみません、結果があるのですが、手元にその資料を持ち合わせておりません。調べて会議中に報告します。

(委員)

今の流れで、転出する若い子もいると思うんですが、戻ってくる子もいるなっていう感覚です。農業をやってまして、今アルバイトさん8人位雇っているんですが、通年雇用じゃないので自由な時間だけ働きたいっていう人が多いのですが、そのうちの半分位は一旦外に出て戻って来る方が多いです。ほぼ20代ですが、何で戻ってきたか聞くと、東京行って戻ってきた子は東京だとめまぐるしくて、疲れちゃう。飯山ですずっと育ったから、のんびりしたところで生活をしたいと戻ってきた子もいれば、スノーボードが好きで、雪の近くで暮らしたいっていう子もいれば、飯山の良さをわかっている若者たちもすごく多い気がするので、1回出てまた戻ってくる人を増やせば老人の町にならないかなと思います。

(委員)

それに対してですけど、大体Iターンする人って都会である程度40代50代まで仕事をして、その後懐かしくなって帰ってくるというケースが多いように思います。

(委員)

私の感覚、周りにいる人たちの感覚でいくと20代30代が結構いるので10代もいますけど、大した数じゃないんですが、そういう子たちもいるんだなっていう感覚はあります。

(本間会長)

ちなみにIターンの方の割合とかはわかりますでしょうか。そちらもあわせて調べていただけますと幸いです。

(建設水道部長)

こちらの方では移住定住推進課という課を持っており、移住の方の受け入れ、飯山に来ていただきたいと、色んな情報発信や取り組みをしていますが、昨年113人移住いただいて、年代で見ますと今手元に資料がないんですが5,60代というよりは30代位の年齢の方が多い。一応その状況があるということで、ご報告させていただきたいと思います。

(総務部長)

令和5年度移住者数113名ということですが、これはIターンかUターンかってちょっとわからないんですが、若い世代が多いということで、数字見ますと、10代未満、10代未満というのは親と一緒に来る子どもですね。113名のうち18名の15.9%、10代が5名、20代が21名で18.6%、30代が24名で21.2%というところで、若い方のところで半数近く移住していただいているという報告がされています。

(委員)

今回の資料を見て、目標に対する集計とか大きな経費とか労力をつぎ込んで、大変な努力をされているのは非常に伝わったのですが、基本構想に目標を掲げていますが、その最終的な目的の重点はどこなのか。例えば、この構想の中で「訪れたい住みたい暮らし続けたい」という言葉があるが、この三つの中でどこを市として一番目指しているのか。ここに人がいない限り、どんなにこれを高めても意味のないものになってしまうと思うんです。色々目標を掲げて施策をやっていますが、そこに人がいなければ、と思うんです。その中でこれからの10年間、訪れたい、住みたい、暮らし続けたいという言葉が目に残ったのですが、どこに一番重点を置かれて施策をしていくのかというのを教えていただきたいです。

(市長)

目標のうち特にこれが一番だとかいうことではないですが、私も先月の28日で任期3年目に入りましたので2年間の経験や状況を踏まえて、新年度の予算編成の中で、そういうことを明らかにしていきたいと思っています。新年度の予算編成ということは1月の下旬ですね。国の1年間2年間の変化も大きいですし、それからこの先の変化も非常に大きいと思っています。一例で言えば、野沢温泉は県内で2番目に人口増なんですね。ただ自然増社会増で見ると非常に特異な値を持っているということもありますし、それから木島平村さんも新しいスキー場の経営に挑戦されている、それから斑尾高原から妙高の方については、外国の資本が入ってきている。また、須坂市では、あと1年もしないうちに大きなモールができるとか様々ある中で、この10年の計画を作ったからそれに沿って2年目、3年目ですというようなことはとてもやってられない。ただし基本は非常によく議論されてできているなと思います。

(委員)

おっしゃる通りで、イコールコンディションで10年でやってくって言うことだと思うんです。まず感じるのが、税収が減ったらそういう施策ができなくなります。納税者がいないと駄目ですよ。まず先立つものですよね。この中で暮らし続けるところがまずベースにないと予算も組めなくなってきます。人がいなければ予算が減ってきますので。この資料から20代30代、まさに働き盛りの方の転出が多いですよ。片や、こちらの資料6

の方は、おそらく訪れたいところに当たると思うんですけど、外から観光に来るところ、道の駅とかも非常にいい感じになって、人が集まってると思うんです。外から来る人たちは非常に上手くいってると思うんです。ただこの人たちはお金を落とすかもしれないですが税収には繋がらない。仕組みは色々あるのはわかるんですけど。訪れたいところは結構うまくいってそうだなと。暮らし続けたい、住みたいというところがちょっと心配かなと思います。一番働き盛りでこれからの将来を担う年代の 20、30、40 代をどういうふうに考えてらっしゃるのかを事務局の方も含めて教えていただければありがたい。

(市長)

どの施策も徹底的にやらなきゃいけないものばかりですが、その中の優先順位などは 1 月末までに方針を立てて、市民の皆さんのご意見も伺って、今日も伺っていますが、それ以外にも市民の皆さんに伺う機会を何とか設けたいと思っています。そういうことも含めて、重点、優先順位を決めていきたいと思いますのでご理解をいただきたいと思います。

(経済部長)

貴重なご意見をいただいたのですが、経済部としてはこの訪れたい、住みたい、暮らし続けたいという三つの言葉のうち表に出るのは、やはり訪れたいという観光の面だと思います。観光で訪れたいという気持ちにさせるという施策の中では、やはり地域の中の人の暮らしを見せる、農業も商業も含めてですけれども、全て連動していると私は思います。人のなりわい、生活の暮らしといったものを観光に結びつけることが大事だと思いますので、全て連動しているというような形で捉えております。

(委員)

おっしゃる通りだと思います。連動しなきゃいけないので、片や外から訪れる人たちが非常に増えてます。片や暮らしや地域の営みのベースとなるところがちょっと期待のところに行っていないかなと思うので。そのバランスが今ちょっと悪いのかなと感じました。

(委員)

移住される方がたくさんいると嬉しいなと。私も鹿児島から来て飯山ほど素敵な街はないと思っている 1 人ですが、移住される場合の手厚い補助金はないんですか。移住してきたら、南の方では手厚い補助金、移動するとこんなにいいとか、子育てこんな楽だとか、そういう特典があるみたいですが。来てくださったらこんな特典がありますよっていう。

(市長)

特別な財源があるわけではありませので、その中で何に振り分けていくかだと思うんです。子供、子育て、そういうところは間違いなく重点事項なんですけど、高齢者はいいいのかと言えば決してそういうことではないので、それぞれの市町村によって構造も違いますし、出産祝い金を数十万円お出しになるということで比べられるときもあり、判断される方に伺いますと、そこは決定的・最終的な判断になる場合もあるようですが、そういう資金面のメリットだけでお決めになっているケースはあんまりないと思うんです。やはり総合的なご判断だと思いますので。ですから、いろんなものがありますよ、も、もちろんありますけれど、これから特に何に重点を置いて、資金を振り分けていくということは、今ここではまだ申し上げられないです。

(委員)

口コミってすごく大きいと思います。あそこの市に行ったらこんなにすごいわよ、ここ

よりは住みやすいとか、こんな良いことあるよっていう、そういうことが口コミで広まって、入ってくる方が増えるっていう、時間かかりますが、そういうお金の使い方をしていただけたらいいのかなって思うので、検討していただけるとありがたいです。

(市長)

もちろん検討しないと言っているのではなく、そういうことは大事なことだと思うんです。ただ、今の時点でどこにというようなことは、まだそういうことを申し上げられるところまでいってない、来年度の予算編成の中でお示ししていけるよう、市民の皆さんにも意見を伺い、皆さんがこれだと思えるような施策に仕上げていきたいと思っております。

(委員)

南箕輪村とかも相当話をしていると思うんですが、センシティブな情報になるといけないのですが、飯山市の出生率ですよ。59名、この突出した低さは、やはり先ほど委員がおっしゃったように、やはり子育てにおける費用、予算だとか、あともう一つは、首都圏でも郊外の千葉だとか、あと東京でも多摩だとか、子供の教育あるいは生活しやすい市にはどんどん人が移っている。おおむね23区から。1年間で59の出生っていうのは、やはり何かメリット、メリットで子供を生むわけじゃないですが、他との比較でそういった支援がないからこの数字なのか、これは人様々なので、どうっていうのはセンシティブな情報なので申し上げられないですが、この異常な引き下げについて、どうぞ判断されているのかを聞かせていただきたいです。

(民生部長)

出生数の減少が全国的な傾向でもある中、去年は市として突出して少なかったというところ。子育て支援では、市の単独で1人お子さんが生まれたときに10万円のお祝い金、プラス国県の補助でプラス10万円のギフトをやっておりますし、出産されてからのアフターケアを保健師中心に取り組んでおります。子育ての環境として飯山市は悪いものではないと思います。ただ、先ほどの20代30代の方の転出が多いということで、その層の人口が少ないこと影響していると思います。また、全国的な傾向で結婚をしなくていいと思う方も増えてますし、子供を産まなくてもいいと考える方も増えているという状況はあると思います。そうは言っても、何とか子供の数を増やしていかないと、将来的な不安というのは当然ありますので、子育てについてもさらに取り組んでいきたいと考えております。

(市長)

去年の59人ですが、これは市の数としてあっと驚くくらいの減少出生数でした。ただ、国、県全体としても、去年は落ち込みがすごい数字であったということがまだはっきり原因はわかってないと思います。どちらにしても、皆さんがここに住んでいただけるようにするために、いろんな施策を総動員してやっていかなければいけないので、人口対策は何かこれ一つやればということではないと思っています。そういう意味で言いますと、若い方が少ないので、仕事を変わりたいとか、あるいは仕事を探して出ていくというお話もありますので、経済に力を入れていくことは非常に必要なことです。増えていくものもあれば、一方で減っていくものもあるということは、雇用の場合は経済力に繋がる話なので、起業する数だけを評価してみても、ちょっとまずいなという印象。実態がわからないんですね。その辺の設定の仕方を少し工夫しなきゃいけないというふうに思いました。

(委員)

事業計画に若い頃参画したことがあるんですけど、予算のない事業計画というのは絵に描いた餅だと思いますので、人口流出を防ぐ、あるいは入ってくる方が増えるために、特別予算を立てていただけるとありがたいと思っていますので、どうぞご配慮ください。

(市長)

わかりました。

(教育部長)

出生数が昨年非常に少ない、ということで子育て支援の関係で少し現状をお話させていただければと思います。今、市では「子ども子育て支援計画」の、新たな計画を作るということで策定をしておりますが、お子さんをお持ちの保護者の方に、子育ての環境に満足している市民の割合を調べたい。今、どういうふうにお父さんお母さん方が考えているかなということで、子育ての環境の満足度を調べる項目がございます。今回の市の総合計画にも目標値が36%ということで示されていますが、今年2月にした調査の結果ですが46.4%の方が満足しているということで、前回の5年前よりも子育ての環境について満足している親御さんが増えている現状がございます。こういった数字が伸びるから若い方の転出が減るとか、出生数が増えるっていうところと直接ぶつからないですが、総合的な施策の中で、飯山市の子育て環境に満足している方の割合は増えている状況でございます。今年計画を作る年ですので、お話聞かせていただきより良いものを目指していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(委員)

移住推進っていう面で言うと、私は東京から来たんですけど、東京の友達に長野に移住するよって言うと、やっぱり長野ブランドはすごくて、いいね私も長野に移住したかったって言うんですけど、飯山って言うと飯山ってどこってなっちゃうんですね。暮らしやすさについて今議論があったんですけど、認知度を高めることも結構重要なのかなと。優先度の度合いはまた皆さんで議論だと思うんですけど、ちょっとそこだけ知っておいてもらえるといいかなと思います。

(委員)

昔飯山市さんで企業誘致をだいぶ力を入れてやってたと思うんですけど、最近聞かないような気がします、もうそちらの方には力を入れてないということなんですか。

(経済部長)

企業誘致に力を入れてないということは一切ございません。暮らし続けたいとか、その部分で言えば大事な要素ですので、引き続きやっていますが、ただ社会情勢的に難しい面が出てきまして、以前は大きな製造工場とかを誘致していた。それが大きい災害がありますよね、そうすると企業さんもリスク管理が非常に重要になってきていて、以前のように大きなものをどんどん作るような条件が整わないという現状があります。ただ、今でいうとITとか物流関係っていうような、大きくはないんですけど徐々に引き合いはありますので、企業支援と起業支援とを併せて進めているといった状況です。ただ実績が伴っていないというのは感じております。

(委員)

うちの会社でも、富山だとか新潟とか、とんでもない県から来たりするんですけどね。こういう土地が余ってて広さがあるで、市としてはどういうサービスしますみたいなものが各企業に送られたりしてるんですけど、飯山市さんとしては企業誘致に対しての行動はど

んな形でやられてるのか。例えばホームページで募集してるだけなのか、ピックアップして案内を出しているのか、色々やり方があると思うんですけど、その辺はどうですか。

(経済部長)

ダイレクトメールを送るとか、そういったことはございませんけれども、関東関西圏域中心に今、職員が自ら足を運んで誘致して紹介している部分がメインになります。コロナの以前は現地に精通される方を配置して、その方を中心に情報を集めて、個別に当たっていたベースがあって、それを今職員が1件1件回っている。いろんなパターンがあるんですが、例えば、ゼネコンさんを介して、そのゼネコンさんの関連業態というか、そういった情報を集めながら汗かきながらやっている状況です。ホームページ等々もちろん制度は発信している。こういった状況ですので、市内の企業さんでもこんなものがあるよとかがあれば私ども出かけて行きますのでご紹介いただければありがたいと思っております。

(市長)

企業誘致に不熱心なわけではないです。例えば、飯山駅前にある市有地のホテルについては、ホテルの創業のために努力を引き続きしたいと思っておりますし、またこちらの地域出身者の方で、こちらに大変関心を持って貢献したいという方もいらっしゃるのので、そういう方からのこういう事業者がいるよというものについても迅速に対応して参りたいと思っております。そう遠くないうちに、小さな企業でございますが、私としては非常に将来的な展望がある事業の方が起業を決めていただけるよう今最終的な努力をしております。そういったものを一つ一つ丁寧に迅速に積み上げていくという事だと思っております。

(委員)

観光と情報発信の側面で質問したいんですが、SNS 各種やられてますが、LINE の登録者数がどの位かと、それぞれ SNS をどのような役割を持って発信しているかお聞きしたいです。せっかく SNS アカウントを持たれてますが、事後報告であったり、綺麗な写真が上がることはあるんですけど、なかなか事前の情報が無いなというのと。LINE は私も登録してるんですけど、火事や地震の情報は来ますけれど、市内の情報がほぼ流れてこないの、それぞれアカウント運用のガイドライン等があればお聞きしたいなと思います。

(事務局)

ご質問の件についてちょっと今資料を探しておりますので、見つかった段階で御答弁させていただきますということでもよろしいでしょうか。

(本間部会長)

では後ほどよろしく願いいたします。

(総務部長)

LINE をどのように活用しているかですが、飯山市では LINE の情報伝達は、災害の関係のみということで運用しております。緊急性の高いものについては LINE で情報を提供する、市の総合情報等については Facebook インスタグラム等を利用するという方向で運用しております。

(委員)

また観光の側面ですけれども、人口減の中で、みゆきポーク生産者の方が少なくなってきた、富倉そばももう富倉では食べられないような状況も出てきているのですが、笹ずしを作ってる方も少ない。ただ、飯山の食といえば、みゆきポーク笹ずし富倉そばだよねっていう情報発信もしますけれど、そのあたりの支援、商工会議所さんとの連携等もあ

ると思いますが。併せてですが民宿、ペンションも縮小傾向減少傾向がありますのでそのあたりの支援もお願いできればと思っております。

(経済部長)

地元の誇る宝物、ブランドっていうのはいくつかあります。伝統工芸であったり、みゆきポークであったり本当に貴重な宝物だと思っておりますので最大限の支援、金銭的にもしております。特にみゆきポークを例に挙げますと、やはり生産者が今2件のみということで、後継者をどうするか、あるいは資材高騰や、燃料等の高騰対策をどうするかというものは、特効薬は今現状では見つかっていない状況です。JAさんとか関係する組織と連携しながら、絶やさないようにするという努力は行政としてもできる範囲でしていきたいと思っております。そばの問題も先ほどの人口減、あるいは高齢化っていう部分に繋がってきますので、そういった繋がりをできる範囲で行政として施策していくということで考えております。また特効薬はないとは言っても何かしらアイデアがありましたらお寄せいただきたいと思っております。

(委員)

企業誘致の話に戻りますが、非常に大事だと思うんです。誘致するときに、来てくださってこちらからお願いする状況だと、よほど条件が良くないと来ない。企業はそうじゃなくて、外から投資したいなって思うような仕組みとか、受け皿がある街作りをするのがいいのかなと思いました。お願いしなくてもどんどん来るようになる状況を作る方が自然なのかなと思いました。例えば白馬ですね、アウトドアメーカーも海外国内も含めて、誘致しなくても来てますと。企業がくれば仕事が増えて、働き盛りの人たちの転出が減ったり、あと出生率っていうのは一番最後の話で。先に夫婦世帯が来て、夫婦世帯の中もお子様をいっぱい欲しい世帯と、お子様を作らないって決める世帯もいらっしゃるの、それは選択の自由なので、出生率が何で減ったのかって言えば、子供を産む夫婦がまずいなければ、子供が出生しない。20代30代が出てしまうのはやりたい仕事がないからですよ。企業誘致はどうなってるんですか、誘致しなきゃいけないような状況なんですかと感じました。仕事を増やしたり、仕事がなきゃ20代30代が町にとどまらないというのがデータに出てると思うんです。流出をどうやって防ぐのかとか、仕事がないと現実問題移住してきた人たちが身に染みてると思うんです。日本は90何%がサラリーマンなんですよ。自分で資産を持ってる方はそんなにないので、基本サラリーマンですよ。働き口がなければ、流出も減らないし、定住率も増えないし、定住する方が増えなければと当然出生も増えませんかというふうに感じました。

(委員)

広域観光の推進という成果と課題の中に、飯山駅をハブとした質の高い体制構築と書かれてのですが、この質の高い体制構築っていうのは具体的に何を指すんですか。

(経済部長)

広域観光の始まりというのが、新幹線飯山駅の開業、これを起点にして、飯山市だけに来られるお客様だけではない。今もう当たり前になってるんですが、やはりそうすると半径20キロ圏内の市町村、県境を越えて妙高市も含めて9市町村が連携して広域観光に取り組むということで始まったもので、質の高いという部分も含めて、何を9市町村のキーワードとして発信していくとなったときに、コロナのちょっと前なんですが、自転

車やろうじゃないか、山岳地帯なんで e-bike っつのやろうと。今でこそ当たり前になっている電動アシスト自転車がその頃、それって何って言うような状況です。それを高めようということで、9 市町村が広域的に取り組み、イベントも含めて、インバウンドにも対応しようということで、インバウンドのお客様にも満足いただける質の高い部分もあるだろうし、その誘致の仕方もあるだろうし、そういったものを広域的に取り組みながら飯山市に利益誘導すること目標にしているといったものです。そういった観光の要素を使ってしっかりとした、それに合うイベントを考えていければと。

(委員)

飯山だけにとらわれずって言うのはいい事。飯山から 1 時間以内の観光地で秋山郷から直江津から妙高でも、たくさんある中でハブとしての方向は良いんですが、例えば海外に行ったときにオプションツアーってあるじゃないですか。行きたい場所とかやりたいアクティビティとかそういうところがホテルへお迎え来てくれるんですよね。ですから、そういうのと連携をとって、ハブとしてバス会社等々と連携しながら、飯山以外の魅力まで売り込むような形でやったらどうかと思うんです。ただ情報発信とか、イベントですとか、やってるだけではなかなか進んでいかないと思うので。商売になるかどうかわかりませんが、結構魅力的な資源がたくさんあるので、効果的にできるんじゃないかなと思うので、そういう方向もどうかと思ってお話をしました。

(経済部長)

同感です。自転車の中にもいろいろあるんですよね。ヒルクライムって言って、競技志向の自転車、あるいは自転車を使って温泉とかスイーツ巡りするとか、そういったライトなユーザー、どちらかというとな本格的なサイクリストではなくて、自転車を使って、そういう食を繋げたりとか、という部分が必要になってくると思います。そこで問題になるのが二次交通なんですね。お客さん向けの二次交通の体制っていうのは、これからはいわゆる MaaS っていう、お客様目線で気軽に利用できる交通システムっていうものは当然視野に入れながら進めるべきだと考えております。

(事務局)

先ほどお答えできなかった飯山市の方はどういったところへ転出する方が多いかというご質問についてお答えします。令和 5 年で 720 人の方が転出されたのですが、県外へ転出した方が 300 人、その県外に転出する方の中で東京神奈川千葉方面の方が一番多いようです。県内の市町村へ転出された方で一番多いのは長野市へ 135 人、その次が中野市へ 105 人です。転出された方は県内へ転出の方が割合的には一番多くて、順番逆になって申し訳ないんですが長野市への転出が多い。その次は中野市。県内県外別に言うと県内の方が若干割合が高いという状況です。それから SNS 関係ですが、飯山市では SNS として LINE、X、インスタグラム、YouTube、Facebook とそれぞれ活用しているところです。利用者数は LINE は 5200 人ほど、X は 2100 人ほど、インスタグラムは 2600 人ほど、Facebook も約 2500 人登録をいただいております。LINE については先ほど総務部長から答弁させていただいたとおりの活用方法をとっていますが、ご指摘いただいたように、事前の情報もできる限り SNS を活用し発信はしているところですが、まだまだ足りないと言われる部分について今後しっかりと対応していきたいと考えております。

(委員)

県外転出者のうちの何%が関東ですか。

(事務局)

そのうち4割5分くらいが関東です。ちなみに転入の方も長野市と中野が多いです。出てく方も多いんですけど、入ってこられる方も長野と中野の方が多いようです。

(本間部会長)

ご質問はよろしいでしょうか。今回様々な意見交換いただきまして、20代30代の人口減少であったり働くところがないということで企業誘致もしていかなければいけない、子供の支援子育ての支援、住みたい暮らしたい住みたい、というのが重要となってくると思うんですが、まち作りの話であったり様々ご意見いただきました。他にもご意見あるかとは思いますが、一旦ここで意見交換終了とさせていただきたいと思います。また持ち帰ってご検討いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。協議事項はこれにて終了といたします。進行を事務局にお返しいたします。

4 その他

(市長)

この会議、次回はいつですか。

(事務局)

特段何もなければ年1回を考えています。今の委員さんの任期が11月26日までなので、任期中は最後の会議になるかと。

(市長)

分かりました。会議の任期に関わらず、今日それぞれ貴重な意見いただきましたので、先ほど来申し上げておりますが、委員の意見も広く聞いて来年度の予算編成に臨んでいきたいと思っておりますので、本日いただきました宿題について、改めてご案内を申し上げて会議ではありませんが、ご都合つく方はお集まりいただいて、皆さんのご意見についてこういう風に臨んでいきたいというような事を話させていただく機会を設けたいと思っておりますので、その時にはご都合はぜひつけていただいて、ご参加いただければありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

7 閉 会 (11:37) 企画財政課長

今回事前に送付させていただいた資料は厚みのあるものですので、またお目通しいただく中でご意見等ございましたら事務局の方までご連絡いただければと思います。特段皆さんの方からなければ、本日の会議はこれを持ちまして閉じたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。